

いわぎん レポート

岩手銀行中間期ディスクロージャー誌(情報編)

2014

The Bank of Iwate, Ltd.
Report 2014

地域とともに。 みどりの銀行のイーハトーヴ宣言!

地域のみなさまの心の中には、それぞれ思い描く「理想のいわて・東北」があると思います。私たちは、現実の「岩手・東北」のなかでその理想が少しでも形を成すことができるよう行動していきたいと考えています。コーポレートカラーが「みどり」の岩手銀行が掲げた「みどりの銀行のイーハトーヴ宣言」には、そうした決意が込められています。

今後も、地域のみなさまとの積極的なコミュニケーションを通じて地域社会の持続的発展に貢献し、地域のみなさまが思い描く「理想のいわて・東北」が現実のものとなるよう日々努力してまいりますので、一層のご愛顧をよろしくご願ひ申し上げます。

平成26年12月発行

株式会社 岩手銀行 総合企画部 広報CSR室

〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号

TEL 019-623-1111 (代表)

<http://www.iwatebank.co.jp/>



岩手のいいものを県外へ
そして地域を元気に

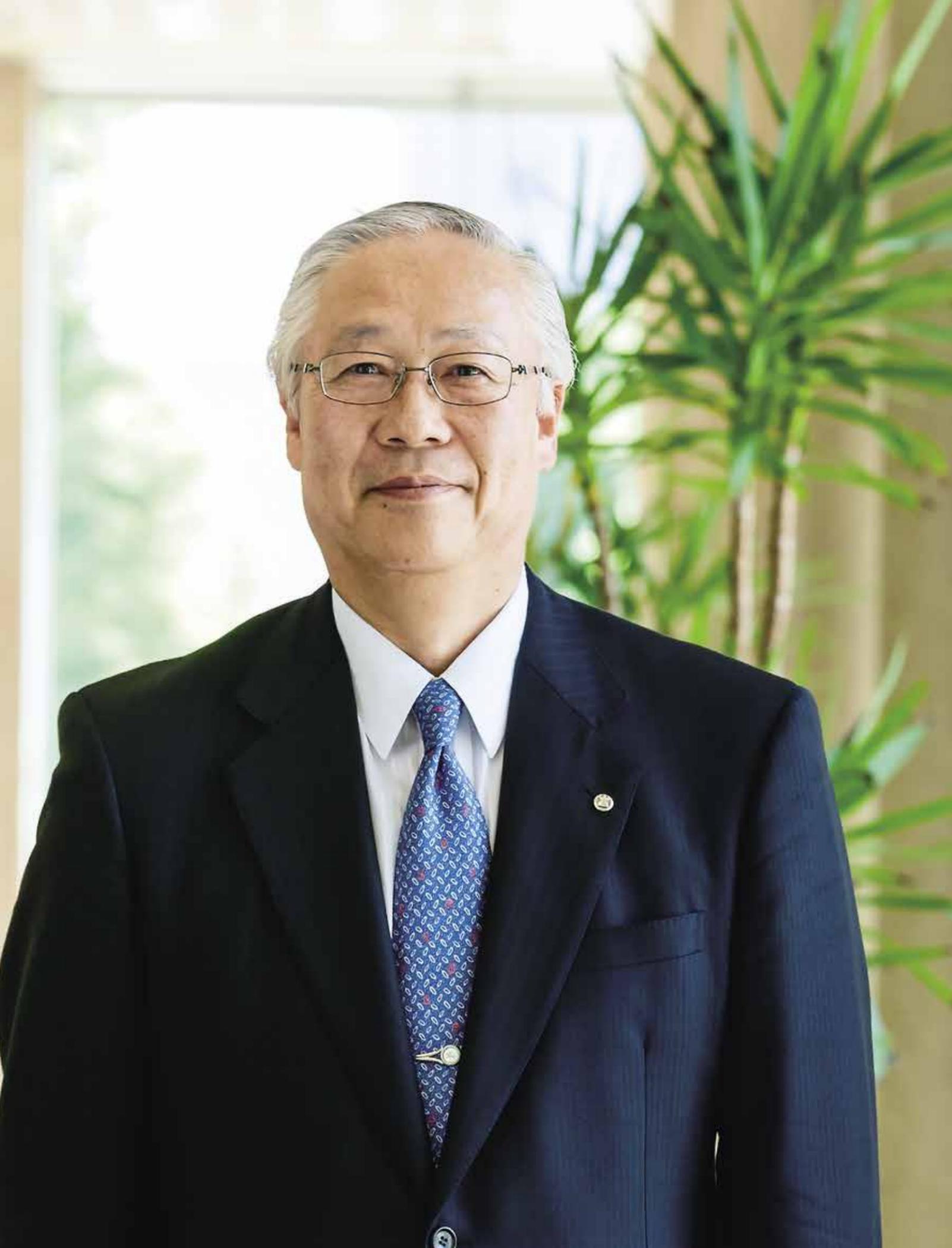
いわてを売り込め! 県外産直「岩手県フェア」
前沢支店 × 株式会社 デジアイズ

ご自由にお持ち帰りください

がんばれ!
「希望郷いわて」の選手たち



岩手銀行
The Bank of Iwate, Ltd.



平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた当行の取組みや現況などをよりわかりやすくご紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

さて、足元の地域経済は、復興需要等に支えられ緩やかながらも回復基調にあります。中長期的には、地域が従来から抱えていた少子高齢化・人口減少などの問題が進行し、マーケットが縮小していくことが懸念されております。

こうした状況下において、当行が果たすべき役割や責任は一層重くなっているものと認識しており、「地域社会の発展に貢献する」、「健全経営に徹する」という2つの経営理念のもと、自己改革を図りながら様々な課題に積極果敢に取組み、長期ビジョンである「地域の牽引役として圧倒的な存在感を示すとともに、トップクオリティバンクとしての地位を確立する」ことをめざしてまいりたいと考えております。

今後とも地域のみなさまから信頼され選ばれる銀行となるため、役職員一同全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

代表取締役頭取

田口幸雄

目次 contents

| | |
|-----------|---|
| 頭取メッセージ | 1 |
| いわてを売り込め! | 2 |
| CSRインフォ | 4 |
| 「赤レンガ」通信 | 6 |
| 支店紹介 | 7 |
| 業績トピックス | 8 |

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします「いわぎんレポート2014(資料編)」をご参照ください。

いわてを
売り込め！

県外産直
「岩手県フェア」



前沢支店×株式会社デジアイズ

岩手のいいものを県外へ
そして地域を元気に

スピーディな対応に脱帽

株式会社デジアイズ
新規事業部部长
おおやま あきら
大山 輝さん

岩手県フェアを開催するにあたり、課題がたくさんありましたが、相談すると翌日には回答が得られるなど、とにかく反応が早かったですね。これからも一緒に取り組んでいけば、新しい価値が作れるのではないかと期待しています。



岩手県奥州市前沢区に本社を構える株式会社デジアイズは、全国の道の駅や農産物直売所にPOSシステムなどを導入している会社です。最近、商品システムの導入にとどまらず、道の駅や産直の販売支援も行っています。そうしたネットワークを持つ同社と岩手銀行前沢支店が手を携え、三陸の海産物を中心とした商品を応援する「岩手県フェア」を群馬県・埼玉県・鹿児島県で開催しました。

このフェアは、前沢支店がデジアイズに提案する形で始まりました。「前沢支店では、『本業支援と生活支援』というスローガンを掲げています。本業の業績が上がれば、雇用拡大などによって地域に暮らす方々の生活にも貢献できます。お客さまに元気になっていただくことを常に考えています」と同社担当の大原雄希行員。「地域を元気に」という発想から、この企画が生まれました。

「提案をお聞きして、ぜひ一緒にやりたいとお答えしました。とはいえ、県外で岩手の良いものを広めて売るとするのは、通常の銀行業務を越えている(笑)。

銀行さんがそこまでやるのかとも思いました」と、デジアイズの大山輝部長。しかし、地域や岩手のために力を尽くしたいという共通の気持ちで、新しい試みへと踏み出す原動力になりました。

前沢支店では他の支店とも連携して出展企業を探し、大山部長とともに沿岸地域へも行員が足を運んで、出展を直接依頼しました。そうやって集めた約40種類の商品はいずれも人気を集め、なかでも三陸の産物は飛ぶように売れたとのこと。「その場で焼いて販売したサンマ200匹、ホタテ200枚は、2時間で無くなりました」と大山部長。盛況ぶりが目に浮かびます。

大山部長は、「企業と企業のマッチングで終わるのではなく、『ものを売る』ところまでアドバイスしてもらいありがたかったです。ものを売ることは、本当に難しい。でも、成功事例があれば、ものごとは動いていくと実感しました」と振り返ります。「お客さまの元気のために、これからは支店一丸となって取り組みます」と大原行員。地域経済に貢献したいという気持ちで、今後も強い絆で結ばれそうです。



基本は「お客さまのために」

岩手銀行前沢支店
融資・渉外グループ
おおはら ゆうき
大原 雄希

今回のフェアでは、他の支店の協力も力になりました。「お客さまのために」という気持ちで、地元から参加企業を紹介してくれたのです。日頃から良い関係を築いているからこそと、心強く思いました。

岩手県フェア開催地の声

株式会社 chests 館(鹿児島県日置市)

店長 さたらい 雷蔵さん

最初にこの企画のお話をいただいたときは、「そんなに速い岩手のフェアを?」と正直ビックリしましたが、今ではすっかりお客さまにも定着し、「おいしい!」「今度はいつやるの?」と反響も非常に大きいです。銀行が産直などの分野に取り組んでいるイメージもありませんでしたので、岩手銀行も関わっているときいてさらにビックリです。集客力もアップでうれしい企画です。

狭山ふれあいファームセンター(埼玉県狭山市)

店長 かわつ ともや
川津 朋弥さん

埼玉県は海がないので、新鮮なホタテ、カキ、サンマを中心とした「岩手県フェア」はお客さまにも大変喜ばれています。こうしたイベントに銀行が関わっているというのは、しばらく経ってから知りましたが、他の産直との差別化が難しい中、提案していただいたことにも感謝しています。いまでは数あるイベントのなかでもメインとして定番化していて、楽しみにしているお客さまも多いです。



岩手県フェアの様子

田野畑中学校国有林活用植樹(遊々の森造成事業)
 未来へ繋ぐ〜田野畑・希望の森〜植樹記念
 平成26年5月22日(広葉樹2,040本)



| 田野畑中学校「遊々の森」整備活動 | | | |
|------------------|------|-------|------|
| 未来へ繋ぐ〜田野畑・希望の森〜 | | | |
| 国有林 572林班 林小班 | | | |
| 平成26年5月22日 植樹 | | | |
| コナラ | 200本 | ミズナラ | 300本 |
| ヤマブキ | 100本 | ヤマモミジ | 100本 |
| カシ | 100本 | イタヤカシ | 200本 |
| ササ | 200本 | アサギ | 100本 |
| その他 | 200本 | | |

自然保護活動 in 田野畑村

平成26年5月22日

岩手銀行は、5月22日に開催された田野畑中学校1、3年生(約70名)による植樹活動を支援しました。

この活動は、田野畑中学校生徒会が、「田野畑希望の森」の造成を目指して広葉樹2,040本を植栽し、国有林において森林環境教育を実践するという目的で企画したものです。

植樹には当行員がボランティアとして参加したほか、

苗木の成長を定期的に記録できる自動撮影機能の付いたカメラを贈呈しました。

午後からは、植樹活動への参加のお礼として、金融教育セミナーを開催しました。自然保護活動がらにどう繋がっているか、そして将来の仕事の中でどう自然保護活動ができるかを意識しながら考えてもらうとともに、銀行はみんなのアイデアが実現する可能性を広げるお手伝い役であることを学んでもらいました。

今後も県内各地の小中学校と連携して自然保護活動を実施していきます。



当日はあいにくの雨でしたが、楽しそうに植樹活動を行っていました。



自動撮影機能付カメラ



豊かな森になることを願って、一生懸命植えました。



午後からは金融教育セミナーを開催。最初に、現金1億円(レプリカ)の重さを体験してもらいました。



「赤レンガ」通信

時代の变迁を取り入れながら、本来の魅力をとり戻します。

赤レンガは現在、2016年春の一般公開を目指して、修理が進められています。ブルーシートに覆われ姿をうかがい知ることのできない現状に、「見学できず残念」「どんな作業が行われているのか」など、ネット上でもたびたび話題になっているようです。

100年余の歳月を経た建物の調査から始まった、このプロジェクト。調査や修理計画を補佐する株式会社文化財保存計画協会の野呂光平さんは「調査では、写真や史料を集めるとともに、OBの方たちから当時の赤レンガについて話を伺いました」と話します。そうした作業を同社の主任研究員・津村泰範さんのもとで行い、文化庁担当官や専門家の指導を仰ぎながら、修理の方針や計画が決まったのだそうです。

修理のメインとなるのは、外壁のレンガタイル補修、屋根の葺き替え、構造の補強とのこと。「安全

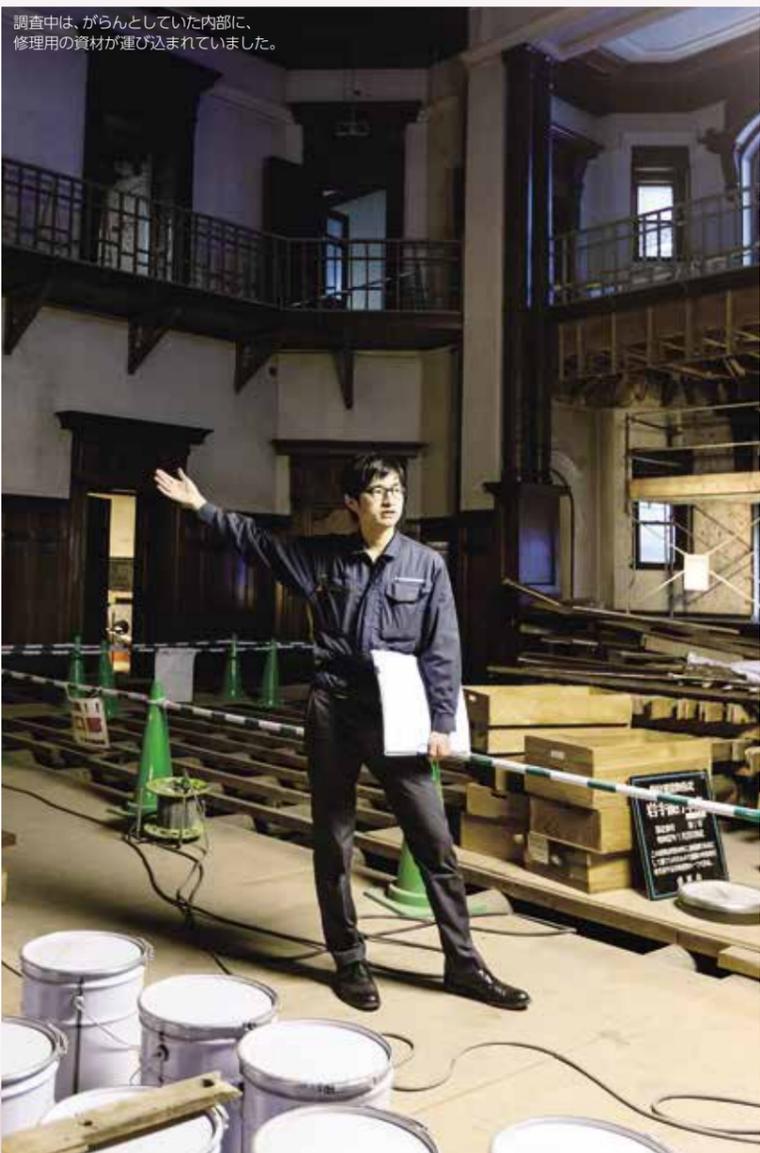
を確保した上で、赤レンガの本来の魅力を引き出すために一部復元します。今回の工事はすべてを元に戻すわけではありません。時代の変遷も残しながら、良いところは引き継ぎ、直すべきところは直すことにしています」と野呂さん。状態の悪い部分の漆喰はすべて塗り直しますが、状態の良いところはできる限り維持するそうです。また、外壁を白いモルタルで塗っていた岩手殖産銀行時代の痕跡をとどめるため、建物の後ろ側に残っている白い外壁はそのまま残すとのこと。赤レンガの歴史が、随所に感じられる仕上がりになることでしょう。

赤レンガを日々、見つめている野呂さんは「人の目の届かないところまで、真面目に造っている建物」と評します。その意味を確かめられる日は、刻一刻と近づいています。



株式会社文化財保存計画協会 技術員の野呂光平さん

主に、復元に必要な史料の収集・整理を行ったほか、現場では実測や工事記録などの緻密な作業を行っている。紺屋町界隈街並み協議会とも連携し、赤レンガの魅力を伝えている。



調査中は、がらんとしていた内部に、修理用の資材が運び込まれていました。



外壁の修理や屋根の葺き替えが進行中。今までの修理のあとがわかる、ちょっと色味の違うレンガタイルを確認できる場所も。

支店紹介

応援の声にこたえて、仕事もボートも頑張ります。

〈岩手銀行山田支店〉



「お客さまに満足していただけるように」と意欲を見せる佐藤美奈子行員。

旧県立山田病院の2階で業務を行っている山田支店。ここに銀行員とアスリートという、2つの顔を持つ女子行員がいます。入行2年目の佐藤美奈子行員は、地元・山田高校でボート部に所属し、3年連続でインターハイに出場した実力の持ち主。現在は国体強化選手の1人であり、10月に開催された長崎国体では、「成年女子舵手つきクォドルプル(漕ぎ手4人、舵手1人)」という種目の選手として出場しました。

佐藤行員は高校1年のときに東日本大震災で被災し、今も仮設住宅から通勤しています。地元で働きたいと、岩手銀行に入行。今年の夏から、窓口業務を担当しています。「仕事は、就職前にイメージしていたのと違うことが多く、戸惑うこともありましたが、でも、人と話すことが好きでしたし、何よりお客さまから『ありがとう』と言ってもらえる

のが嬉しいです」と話します。

平日は仕事に集中し、ボートの練習は週末のみ。毎週、内陸にある御所湖で行います。「土曜の朝5時半発のバスで出かけ、高校生や強化選手と一緒に練習します。帰りが日曜の夜になることも」と佐藤さん。「負けたくない」というアスリート魂が、佐藤さんを支えます。そして、仕事との両立については、「うまく切り替えてやっています。支店のみなさんから、『頑張れ!』と応援してもらっていて、とてもありがたいです」

これからの目標を尋ねると、「ボートでは、2年後の岩手国体で活躍できるように。そして仕事では、もっと知識を増やしてスキルアップし、お客さまの様々なご要望にお応えできる行員になれるよう頑張りたいです」。強い気持ちを胸に、今日も笑顔でお客さまを迎えます。



岩手銀行山田支店
〒028-1341
下閉伊郡山田町八幡町12番9号
【旧県立山田病院】2階
TEL 0193-82-3131



「仕事と練習を両立させて頑張っている佐藤さんに支店一同刺激を受けています」と話す佐々木昌久支店長(左)



「つらいこともあるけれど、ボートが好きなんだと思います」。その気持ちを胸に、毎週末の練習に臨む。

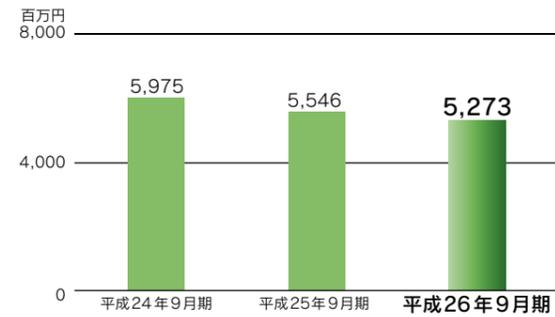
業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

主要な指標の推移

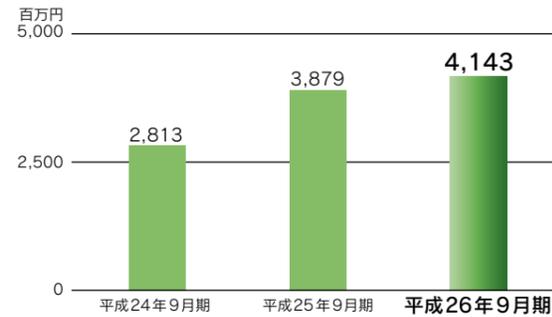
コア業務純益

コア業務純益は、役員取引等利益が増加したものの、資金利益が利回りの低下により減少したことなどから、前年同期対比2億円減少の52億73百万円となりました。



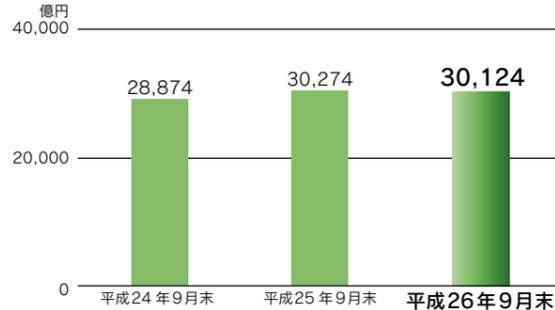
中間純利益

コア業務純益が減少したほか、有価証券関係損益が減少したものの、法人税等が減少したことなどから、中間純利益は前年同期対比2億円増益の41億143百万円となりました。



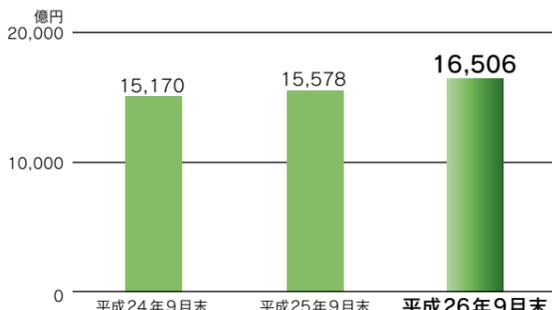
預金等残高

個人預金、法人預金は増加したものの、公金預金が減少したことなどから、前中間期末対比150億円減少し、期末残高は3兆124億円となりました。



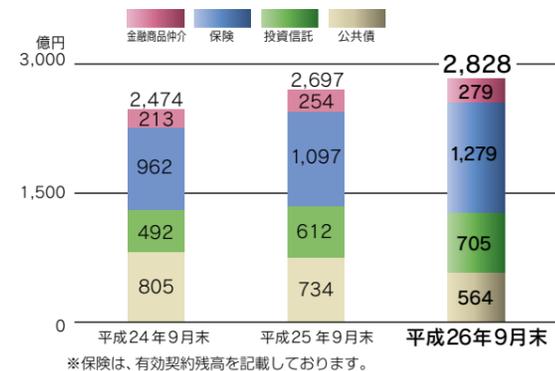
貸出金残高

主に地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、前中間期末対比928億円増加し、期末残高は1兆6,506億円となりました。



預り資産残高

保険の販売が堅調に推移したことなどから、前中間期末対比130億円増加し、期末残高は2,828億円となりました。



用語のご説明

〈自己資本比率〉

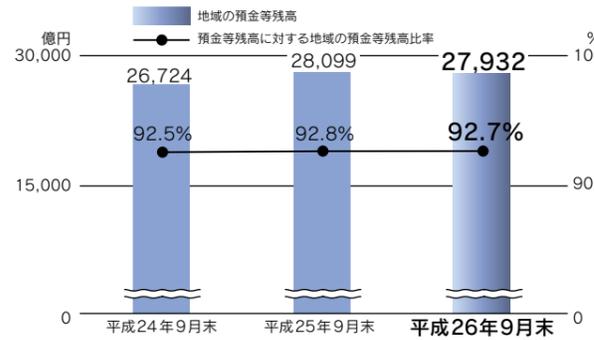
信用の程度に応じてウェイト付けした資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店みの銀行は4%以上の水準を維持する必要があります。

「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載計数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

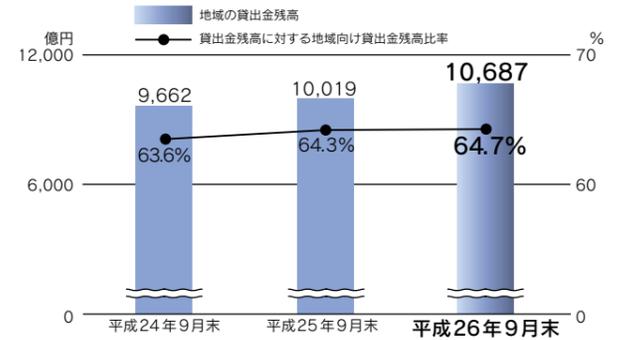
地域の預金等残高の推移

平成26年9月末の地域の預金等残高は2兆7,932億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。



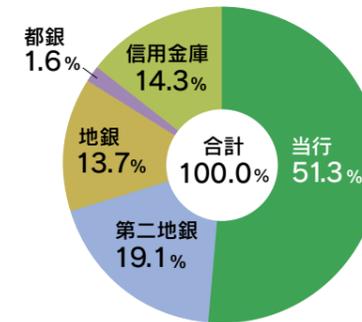
地域向け貸出金残高の推移

平成26年9月末の地域向け貸出金残高は1兆687億円で、総貸出金に占める割合は64.7%となっています。



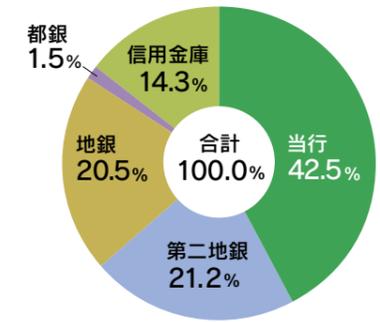
県内預金等シェア

平成26年3月中平均残高ベース



県内貸出金シェア

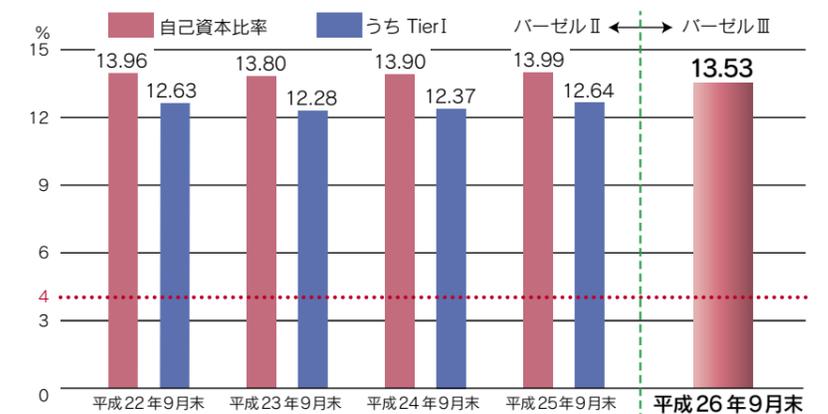
平成26年3月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

自己資本比率

自己資本比率は平成26年3月期より新基準(バーゼルⅢ)で算出しております。平成26年9月末の単体自己資本比率は、13.53%となり、引き続き高い水準を維持しております。



格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内外の2社の格付機関から「格付け」を取得していますが、双方から安全性を高く評価されています。

